

日本リウマチ財団発足 30 周年を迎えるにあたって

公益財団法人日本リウマチ財団 代表理事 高久 史麿

リウマチ性疾患治療の先駆者である故塩川優一先生が中心となって、故七川欽次先生、故水島裕先生、故本間光夫先生をはじめとする多くの先生方がリウマチ性疾患征圧を目的に当財団発足のために奔走されて早くも30年の時が流れ、2017年11月1日に日本リウマチ財団は設立30周年を迎えることになりました。

当財団が発足するまでは、日本には関節リウマチの患者様はほとんどいないと言われており、認知度も低かったこの疾患の認知度が飛躍的に上昇したきっかけは、30年前に日本リウマチ財団が設立され、リウマチ財団登録医、リウマチケア看護師、リウマチ財団登録薬剤師など専門職の教育・育成を推進してきたからだと思っています。

現在、バイオ製剤の登場によって、リウマチ性疾患の治療は飛躍的に進歩し、リウマチ性疾患の多彩な症状を呈する新しいタイプの難病への征圧へと向かっています。そのためには、産・官・学、そして患者団体との密接な連携が重要です。

塩川先生から受け継いだ二代目の理事長として、今後もリウマチにおける当財団の

役割について使命感を持ち、様々な関係者のご理解・ご支援のもと我が国の新しい時代のリウマチ性疾患征圧に向けて活動、すなわち各診療科のネットワークによる患者様を中心とした医療の構築に全力を尽くす心算であります。

関係する皆様方のご協力、ご尽力を心から期待しています。

日本リウマチ財団発足 30 周年について ～新しいリウマチ対策事業の推進を～

公益財団法人日本リウマチ財団 常務理事 企画運営委員長 西岡 久寿樹

日本リウマチ財団は30年前に初代理事長の故塩川優一先生が立法院や行政の要望のもと、リウマチ医療の確立と治療システム構築の推進を強力に推進するため、1987年11月1日に厚生省（現・厚生労働省）に正式に認可された財団で、多くのリウマチ財団登録医、リウマチケア看護師、リウマチ財団登録薬剤師を育てて参りました。

当財団は、設立当初からリウマチ診療教

育機関のネットワーク化と画期的な治療方法の普及を中心に活動をしており、この間、塩川先生から高久史麿先生に理事長がバトンタッチされ、私自身も引き続き企画運営委員長という大役を仰せつかっております。

リウマチの治療は生物学的製剤の誕生により画期的な進歩を遂げ、リウマチ性疾患の多くは克服されつつあります。しかしながら、最近の難治性のリウマチ性疾患はリ

ウマチ科のみならず、整形外科・皮膚科・呼吸器科・消化器科・小児科・神経内科などの多くの診療科にまたがり、それぞれの診療科のネットワークの構築という新しい重要な課題が浮上してきました。

「バイオ治療」を軸とした診療体制の新しい枠組みの構築という極めて重要な課題に立ち向かうという新しいリウマチ対策の局面を迎えております。日本リウマチ財団

はこの新しい重要なミッションを、全国各地で活躍する数多くの経験豊富なリウマチ財団登録医、リウマチケア看護師、リウマチ財団登録薬剤師との密接な連携をもとに推進して参りたいと思います。

引き続き当財団にご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。